



### ☆☆今月のテーマ☆☆

- ・秋の自然や恵みを喜び、関心をもって過ごしていく
- ・体調を整えて寒さに負けず、身体を動かしてしっかり遊ぶ



### ～今月の園内学習～

- ・足し算…2の段
- ・掛け算…2の段
- ・数字カード…1～20の数字
- ・食べ物カード…今月の旬な食べ物
- ・魚への漢字…「さけ」「かます」
- ・木への漢字…「からたち」「たちばな」
- ・絵画カード…「吹雪」他
- ・歴史カード…「森鷗外」ほか
- ・ひらがなカード…「あ行」
- ・国旗カード…カナダほか北アメリカ諸国
- ・地理カード…愛媛県ほか四国地方
- ・声に出して読みたい日本語…論語ほか
- ・英会話…動物、曜日、季節の種類

### ♪今月の歌♪

◇証城寺のたぬきばやし  
◆ともだちさんか

### ～行事予定～

- ・お誕生日会…24日
- ・身体測定…21日
- ・英語教室…8日
- ・書道教室…9日・30日〔年長〕
- ・避難訓練…27日
- ・遠足(植物公園)…4日
- ・おいもほり…6日
- ・交通安全教室
- ・運動会(五日市中学校)…18日
- ・リミック…13日〔年少児〕  
28日〔年中・年長児〕
- ・体操教室…10日〔年中・年長児〕

### ～保育のポイント～

ローマの道徳哲学的エッセイストのM.T.キケロはただ言語を話すだけではなく、よりの確に、またより美しく話したり、立派な文章を書くことを「より人間的なこと」と名付けていました。また、ドイツの哲学者カントの影響を受けたF.トニートハンマーはいっそう人間的になるように勉強することを「ヒューマニズム」と呼びました。ここで幼児の言葉の発達状況を振り返ると、生後数か月で泣き声の他に唇を使った無意味な発音「バブリング」をはじめます。その後も母親からの絶え間ない言葉の刺激を受け、**掴まり立ち**から歩行期には「ババババ」などの発音をはじめると共に、言葉の理解ができるようになります。遺伝子によって、**妥当な言葉刺激の環境があれば**着々と言語脳が出来上がることが分かっています。1歳半頃の二語文、2歳過ぎの三語文といった具合に生後1～2年間の言語能力の発達には目を見張るものがあり、次第に物や色の名称他に自分と相手という一人称や二人称の概念から三人称と言葉の概念が広がります。3歳では数の概念、5歳では左右といった抽象的な概念も出て来て、言葉でしゃべれるようになってきます。つまり言語の獲得とは、幼児が自分の考えを周囲にある言葉の中から探し出し、当てはめてゆく作業といえます。さらに試行錯誤を繰り返して脳の思考機構の中に高次の概念とそれを表現する構文等が獲得されていくと考えられています。これらの言語の獲得には脳の臨界期があるということを社会から隔離された(狼に育てられた)少女が11～13歳で発見された後、言語の獲得が極めて困難だった例からも理解できると思います。諺「鉄は熱いうちに打て」にあるように未就学期の(語りかけや絵本の読み聞かせなど)言葉の刺激環境の重要性を改めて理解していく機会になれば幸いです。

～わらべうたが子どもを教う(大島清著より抜粋)～



### さくら組だより



小春日和の柔らかな日差しを受けての外遊びは心がウキウキと弾み、楽しさも倍増のよう。そんな中、こどもたちは近くの公園でジャングルジム、ブランコにすべり台と遊具巡りを楽しんでいます。ただ、その遊具の中でもなかなか手が出せないでいたすべり台と一体となった(雲梯ぼっい)太鼓橋にいよいよチャレンジしました。はじめてのことで「ちょっと怖いなぁ～」と尻込みながらも興味関心の方が勝っているのでどこをどうもっていくか、自分なりに作戦会議をした上で頑張っていました。また、園内の木に鳩の巣をある日発見して以来、日々鳩ウォッチが日課となっています。みんなで驚かせないように「静かにね！」と約束し合って観察を続けていくと巣に赤ちゃん鳩が孵っていて「かわいい！」と感動していました。室内製作のカレンダーでは、「秋」をテーマにした毛糸でシノムシを、千切り絵でもみじを表現し、段々と作風がしかりとしていることにも成長を感じますので今後もよく見守っていきたいと思います。



### ひまわり組だより



日の出日の入り時間の変化や朝夕の涼しさを通り越した肌寒さが季節の移ろいを感じる今日この頃。新型コロナウイルス感染症拡大で定期交流が途絶えていた老人施設によりやく再開することができるようになり、こどもたちも施設で披露するお遊戯などの練習を重ねてきました。そして、現地へ向かうまでは調子は絶好調でしたが、いざ施設に到着し、おじいちゃんやおばあちゃんの歓待を受けて自己紹介の段になると緊張感マックス状態に…しかし、みんなは馴染みのある楽曲が流れると身体が自然と動き、施設の方々の温かい手拍子や応援なども後押しとなって練習以上のものが披露できていました。その後は、みんなで作成した作品をプレゼントしたり、記念撮影したりしてほのぼのとした雰囲気です施設の方と楽しいひとときを過ごすことができました。今月の運動会準備もそろそろ開始しており、今度はかけっこやお遊戯で保護者の皆さんの前で頑張っている姿が披露する場面がやってくると思います。お楽しみになさって下さい。



### ゆり組だより



身にからみつような蒸し暑さ一杯のトンネルをようやく抜け出し、清々しさの中、いろんなことに活動的になれる季節となりました。ひまわり組と一緒に久々の老人施設へ「敬老の日」を少しばかり過ぎてしまいましたが、慰労訪問に出掛けました。年長児としては社会体験も兼ねてバスで現地に向い、車高の高いところから見える車窓に暫しうっとり状態でした。緊張気味のひまわり組の子たちをリードしてお遊戯などを頑張ってくれるあたりはさすが年長児と感心させられました。先月から就学生活に向けた各種取組みをはじめ、お昼寝はなしでその間は「読み」や「書き」や外遊びで生活リズムを整えるようにしています。ひらがなや数字のなぞり書きにはじまり、ワークブックも一つひとつ順追って取り組むようにしています。その他、年長児からスタートした鍵盤ハーモニカや絵の具活動も回を重ねる毎に要領を得てきており、上達具合も上々のようです。今後も就学生活に向けた準備や体験ができるようにしていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

### 給食室だより

### ～身体を守ってくれる”免疫力”～

今年、春先から姿を現した酷暑が陰り、本来の乾燥した低い気温の気候が定着し始めました。そんな中では(急な)寒暖差疲労からくる体調不調による「免疫力の低下」でインフルエンザウイルスなどの感染症になりやすくなるのはご存知の通りです。その免疫力を維持していくのに必要なことは十分な(安息)睡眠と適度な運動、そしてストレスを溜めないことが必要です。私たちの免疫には、白血球、自律神経に腸内細菌などが有機的に機能し、ウイルスなどの病原体が体内に侵入するのを防ぎ、感染予防の効果を発揮してくれることとなります。これが有効に機能させるには①腸内環境を整え、②(体内に取り込まれる酸素も過剰だと害となることから)活性酸素を除去する力を保つ、ことが必要となってきます。次に、日々の食生活ではどのようなことに気をつけていけばいいのでしょうか？まずは、①(夏場でも取り上げましたが)体内に冷たい飲食物は控えること、②ビタミン類、植物繊維やポリフェノール※などが含まれている(きのこ、海藻なども含む)緑黄色野菜や発酵食品の摂取、③身体の細胞や免疫物質組成に必要な(肉、魚、卵、大豆や乳製品)たんぱく質の摂取。このような生活習慣から季節の変化にも太刀打ちできる免疫力維持が図られることで生物などが生まれながらにして持っている、ケガや病気を治す力・機能の自然治癒力を高めることにも繋がり、これからの季節を元気に楽しく過ごしていけるようにしましょう。 ※…植物が紫外線や害虫から身を守るために作り出す化学成分。人間にとっては、過剰な活性酸素を除去してくれる成分で、免疫力の維持向上に繋がります。